

子どもも大人もふれあい、交流が深まる

▼第36回生きいき「ひの」ふれあいまつり

伝統あるものや人との触れ合い、町民みんなが元気になって将来のまちづくりにつなげようと、10月26日と27日の2日間、役場前駐車場などを会場に、第36回生きいき「ひの」ふれあいまつり（同実行委員会主催）がにぎやかに開かれました。

農産物・加工品の販売やフリーマーケットなどの即売コーナーのほか、文化団体などの作品展示、

吹奏楽やコーラスなどの芸能発表があり、多くの来場者でにぎわいました。

今年のオープニングセレモニーは、町内で活動している音楽グループ Seven Rider の宮田浩希さんが日野町をテーマにした曲『遠くへ大山』を、日翔会の皆さんが『ソーラン節』を披露され会場を沸かせました。



『遠くへ大山』を熱唱する宮田さん



息の合った『ソーラン節』を披露する日翔会の皆さん



即売のテントでは来場者と交流が深まる



手の込んだ作品の展示に見入る来場者



子どもたちの発表に大きな拍手が送られた（右：黒坂小、左：根雨小）



開発センターロビーに登場した立派な庭園に、誰もが見入った



メダカすくいには子どもたちに大人気

熱唱、熱演に観客は感動

▼第12回日野町民ミュージカル

『鵜の池新おとぎばなし』ためらい星からやってきた旅人たち』

今年で12回目を迎えた日野町民ミュージカルが、町文化センターで、11月10日の昼と夜の2回上演され、21人の出演者の熱唱、熱演に観客は大きな拍手を送りました。

今回は『鵜の池新おとぎばなし』ためらい星からやってきた旅人たち』と題し、神秘に満ちた宇宙の果てに存在する不思議な星と鵜の池を舞台にしました。

天国でも地獄でもない星に、生きた時代の違う人たちが死んでも生きてもいない宇宙

ぶらりんの状態で出会い、「やり残したことがある、帰りたい」という言葉をきっかけに、みんながそれぞれの時代へ帰ろうとしますが、着いた場所は鵜の池。鵜の池を舞台にそれぞれがやり残した思いを巡らせ、最後は、旅を共にした仲間が絆で強く結ばれ、過去を振り返らず、未来へ向け強く進もうとするファンタジーです。

【出演者】（順不同、敬称略）

《猫》ノラ…佐々木航太郎、白…谷口佳乃子、ココ…足立麻緒、

チヨコ…藤原さくら《お藤》吉野舞《あすか》瀬田琴未《死神》長住康二《おしどり》こんぼう…倉間紀代子、がんばろう…音田いく子、けんぼう…加藤良子《凡人》①…長尾光貴、②…藤原敦子、③…宮脇淳子《考霊天皇》中村信夫《ヤマタノオロチ》シャリリ…加藤梨馨、シユルシユル…毛利智尋、シャンシャン…瀬田瑞季、シヤラシヤラ…阿部瑞季、ココロ…松本美季、ルルル…山田楓夏、ララル…宮脇玲香

